

Childcare Practices in ISHIKAWA Prefecture: Comparison between Multiple Births and Singletons

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/43618

研 究

石川県における乳幼児の育児の実態と母親の意識

—多胎児と単胎児の場合の比較—

西村真実子¹⁾*1, 津田 朗子²⁾*2, 林 千寿子⁵⁾*3
 木村留美子²⁾*1, 関 秀俊²⁾*4, 飯田 芳枝³⁾*5
 松本 美紀⁴⁾*5, 伴 真由美¹⁾*1

【論文要旨】

3歳未満の多胎児の母親156名を対象に、育児の実態と母親の意識を調査し、単胎児の実態と比較した。多胎児の母親は妊娠中に早産防止などで入院する者が多く、精神的にも早産への心配や腹部の重さなどで多胎妊娠の大変さを感じる者が多かった。育児においても授乳に単胎児の2倍以上の時間を要し、夜間起きる回数も多く、母親の心身の負担の大きさが推察された。

また、妊娠中が大変であると育児にも同様な思いをもつ者が多く、子どもを叱りすぎたり虐待しているのではないかと心配するのは多胎妊娠に困惑した者に多かった。多胎児の母親は多胎の教室の開催を希望する者が多く、また双子の親の会への参加が母親のストレス解消に効果的であったことから、妊娠中から育児期に渡る多胎児専用の支援が重要であると思われる。

Key words : 乳幼児, 子育て, 多胎児, ストレス, 母親の意識

I. はじめに

多胎児の育児においては、子どもの数が多いことや、授乳問題や言葉の発達などの多胎児特有の育児上の課題があり、母親の心身の負担が大きいことが考えられる。また、多胎児の妊娠・出産・育児に関する情報は少なく、また情報があってもそれに接する時間的余裕がない多胎児の母親には、育児情報が流れないのが現実であると言われる¹⁾。

そこで、石川県における多胎児の育児の実態と母親の意識を調査し、単胎児の母親の場合と比較し、子育て支援策を考える上での資料とし

た。

II. 調査方法

1. 対 象

対象は、石川県内において平成8年4月から平成10年7月の間に出生した全多胎児の母親284名と同期間に出生した単胎児の母親852名である。対象の選出は石川県内の保健福祉センターと金沢市保健福祉センターにおいて、人口動態の出生小票から上記期間に出生した全多胎児と、同期間に同地域（保健福祉センター管内の地域）に出生し、性と年齢が一致する単胎児を多胎児の3倍数抽出した。

Childcare Practices in ISHIKAWA Prefecture

: Comparison between Multiple Births and Singletons

Mamiko NISHIMURA, Akiko TSUDA, Chizuko HAYASHI, Rumiko KIMURA,

Hidetosi SEKI, Yoshie IIDA, Miki MATSUMOTO, Mayumi BAN

1) 石川県立看護大学 2) 金沢大学医学部保健学科 3) 石川県保健福祉部健康推進課

4) 元石川県南加賀保健所 5) 元金沢大学医学部保健学科

*1 研究職(看護婦, 保健婦) *2 研究職(看護婦) *3 研究職(看護婦, 助産婦)

*4 研究職(医師) *5 行政職(保健婦)

別刷請求先: 西村真実子 石川県立看護大学 〒929-1212 石川県河北郡高松町中沼7-1

Tel 076-281-8331 Fax 076-281-8337

[1154]

受付 99. 7. 8

採用 00.10.31

2. 方 法

調査は別報²⁾と同様の方法で平成10年11月～同年12月に行った。調査項目は別報²⁾の調査項目に、妊娠・出産に関する設問（出産方法、不妊治療をうけたか、妊娠中の入院の有無、妊娠中の大変さ、妊娠中の心配事）と、多胎児に関する設問（多胎とわかった時の嬉しさや困惑、双子の会への参加、多胎児を育ててよかったと思うか）を加えたものである。

また、母親の意識と背景要因の関係、および多胎児群と単胎児群の母親の意識を比較するために、 χ^2 検定と student-t検定を用いて分析した。

Ⅲ. 結 果

多胎児に関しては、調査票が156名の母親から回収され（回収率54.9%）、単胎児は498名の母親から回収された（回収率58.5%）。

1. 対象の特性

表1に母子の特性を多胎児・単胎児別に示した。母親の年齢や有職率および仕事の形態、家族形態、住居の形態、対象児の年齢や出生順位（多胎児の場合は、多胎第一子とその母親が産んだ子どもの何番目にあたるかを示す）、保育所や幼稚園への通所状況は両群において有意差はなく、ほぼ同じ背景であった。また、多胎児は双子が153組、3つ子が3組であった。ただし、多胎児の母親の方に子どもに病気や成長の遅れがあると答えた者の割合がやや多く、多胎児の平均出生体重は単胎児に比べて小さかった。また、多胎児の母親の子どもの人数は単胎児の母親よりやや多かった。

また、母親が育児主体者の割合や、家事や育児の協力者・相談者がいる者の割合、および誰が協力者・相談者であるかは両群で同様であったが、多胎児の母親では不妊治療をうけた者や、妊娠中に早産防止などで入院した者が多く、また自然分娩の者が少なかった。

2. 育児の状況（表2, 3）

94.4%の単胎児の母親が出生から1週間以内に子どもの世話を始めていたが、多胎児では76.9%であり、遅くなる者が多かった。また、

一日の平均授乳時間が多胎児が191分、単胎児が86分であり、乳児期の前半と後半でみても多胎児に単胎児約2倍の時間が費やされていた。母親の平均睡眠時間は両群間で差はなかったが、育児で夜間起きる回数は多胎児の母親に多かった。

また育児や出産の情報は、両群共育児書・テレビ・新聞や、友人・知人から得ている者が多かった。次いで家族や乳幼児健診、妊婦健診が多く、さらに多胎児の母親では双子以上の親の集会、単胎児では同年齢児の親の集会を情報源にしている者が多かった（図1）。

3. 妊娠中の母親の意識（表4）

多胎児の母親は単胎児の母親に比べ、妊娠中に大変さを感じたり、心配事があった者が多かった。妊娠中に大変さを感じたり、心配事があった者は、育児にも同様な思いをもつ者が多かった（表4, 5）。大変さを感じた理由は、単胎児の母親がつわりと腰痛が多いのに対して、多胎児の母親はお腹の重さとつわりが多かった。心配事の内容は単胎児の母親が出産、育児の順に多かったが、多胎児の母親では早産、出産の順であった。

4. 育児に関する母親の意識

1) 育児に関する心配事（図2）

育児に関する心配事がある者は、多胎児の母親76.3%、単胎児の母親72.5%で、両群共70%をこえていた。内容は両群共、風邪をひきやすい、指しゃぶりの順に多かったが、多胎児では次いで夜泣き、離乳食、よく泣く、体重が増えないの順に、単胎児ではかんが高い、一人で寝ない、落ち着きがない、夜泣きの順に多かった。多胎児の母親は食事や子どもの泣きなどの差し迫った問題に、単胎児の母親は子どもの行動を心配する者が多かった。

また、子どもを叱りすぎたり虐待があるのでないかと心配する者が多胎児50.3%、単胎児44.8%であり、多胎児の母親では、多胎とわかった時に困惑した母親の方が叱りすぎや虐待傾向ではないかと心配する者が多かった（表5）。

2) 育児のストレスおよびストレスの解消

多胎児の母親の89.7%、単胎児の母親の

表1 対象の特性

項目	多胎児の母親 (n=156)	単胎児の母親 (n=498)	χ^2 検定または <i>t</i> 検定
母親の平均年齢(歳)	34.4±4.3	30.2±4.2	n.s.
有職者	59 (37.8)	231 (46.4)	n.s.
母親の仕事の形態			n.s.
常勤	27/59 (45.8)	122/230 (53.0)	
自営	11/59 (18.6)	33/230 (14.3)	
パート	13/59 (22.0)	51/230 (22.2)	
その他	8/59 (13.6)	24/230 (10.4)	
核家族	94 (60.3)	283 (56.8)	n.s.
一戸建て住宅	112 (71.8)	350 (70.3)	n.s.
子どもの平均年齢(月)	15.7±8.0	17.1±8.0	n.s.
子どもの性別			—
男児のみ	65/154 (42.2)	233/481 (46.8)	
女児のみ	49/154 (31.8)	248/481 (53.2)	
男女	40/154 (26.0)		
多胎児(第1子)の出生順位			n.s.
第1子	80 (51.3)	219 (44.1)	
第2子	51 (32.7)	195 (39.2)	
第3子以上	25 (16.0)	83 (17.5)	
不明		1 (0.2)	
子どもの平均人数	2.7±0.8	1.8±0.8	n.s.
子どもの病気あり	16/154 (10.4)	32/488 (6.6)	n.s.
子どもの発達の遅れあり	19/152 (12.5)	11/490 (2.2)	p<0.01
保育所・幼稚園に通っている	36/152 (23.7)	123/482 (25.6)	n.s.
平均出生体重(g)			—
第1子	2326±466	3092±470	
第2子	2327±446		
第3子	1933±319		
主な保育者が自分のみ	108 (69.2)	360 (72.3)	n.s.
家事や育児の協力者がいる	141/156 (90.4)	459 (92.2)	n.s.
育児の相談者がいる	151 (93.8)	477 (95.8)	n.s.
不妊治療をうけた	37 (23.7)	28 (5.6)	p<0.01
自然分娩	74/158 (46.8)	425 (85.3)	p<0.01
妊娠中入院した	126 (80.8)	142 (28.5)	p<0.01

平均±標準偏差または人数(%)

81.9%が育児にストレスを感じていた。また、育児のために我慢していると思う者が多胎児の母親50%、単胎児の母親42.9%、一人で育児をしていると思う者が多胎児の母親31.4%、単胎

児の母親24.1%と、双方共多胎児にやや多かった。

ストレスを感じる理由は、両群共自分の時間がない(多胎児23.8%、単胎児27.2%)、子ど

表2 多胎児と単胎児における育児の状況の比較

項目	多胎児の母親 (n=156)	単胎児の母親 (n=498)	χ^2 検定または t 検定
子どもの世話を始めた時期			p<0.05
出生～1週間の間から	120 (76.9)	469 (94.4)	
1週間～1か月の間から	25 (16.0)	24 (4.8)	
1か月以上後	10 (8.1)	4 (0.8)	
平均授乳時間/1日(分)	191±173	86±71	p<0.01
夜間起きる回数(回)	2.5±1.9	2.0±1.5	p<0.01
母親の睡眠時間(分)	382±64	398±73	n.s.

平均±標準偏差または人数(%)

表3 多胎児と単胎児における年齢別の育児に費やす時間

子どもの年齢		一日の授乳時間(分)	一日の睡眠時間(分)
乳児期前半	単胎児(n= 58)	104.9± 72.3	384.3± 68.5
	多胎児(n= 25)	172.3± 81.2	375.6± 79.4
乳児期後半	単胎児(n= 96)	70.7± 76.0	388.4± 80.0
	多胎児(n= 38)	148.1±122.0	355.5± 55.6
1歳	単胎児(n=238)		400.2± 70.7
	多胎児(n= 66)		393.6± 58.5
2歳	単胎児(n=105)		408.0± 70.7
	多胎児(n= 27)		394.4± 63.2

平均±標準偏差

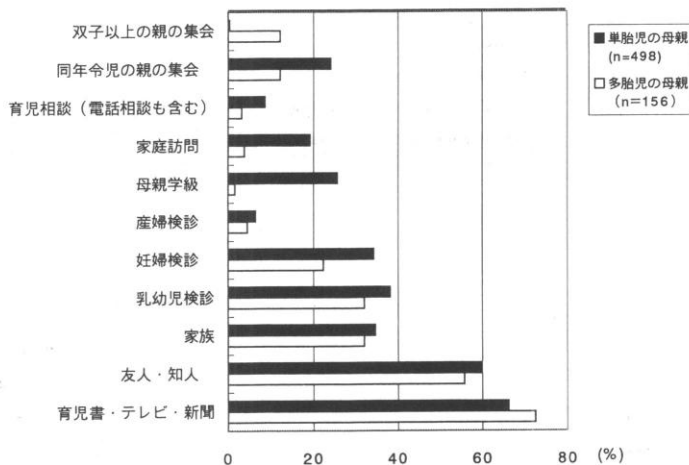


図1 出産や育児の情報源

もが泣きやまない (多胎児23.8%, 単胎児17.9%), 子どもが言うことをきかない (多胎児16.3%, 単胎児23.6%) が多かったが, 多胎児の母親に自分の体調が悪いことを理由にする

者が22.5%おり, 単胎児の17.3%に比べてやや多かった。

また, ストレスの解消をしている者は多胎児の母親60.3%, 単胎児の母親63.8%で, 両群共

表4 妊娠中の母親の意識

項目	多胎児の母親 (n=156)	単胎児の母親 (n=498)	χ^2 検定
妊娠中の大変さ			p<0.01
非常に大変	76/155 (49.0)	78/490 (15.9)	
多少大変	62/155 (40.0)	227/490 (46.3)	
あまり大変でない	17/155 (11.0)	185/490 (37.8)	
大変さの理由			n.s.
つわり	65/333 (19.5)	187/504 (37.1)	
腰痛	49/333 (14.7)	102/504 (20.2)	
お腹が重い	72/333 (21.6)	50/504 (9.9)	
切迫流産	35/333 (10.5)	36/504 (7.1)	
妊娠中に心配事があった	135/154 (87.7)	298/490 (60.8)	p<0.01
心配事の内容			n.s.
出産	63/261 (24.1)	150/438 (34.2)	
育児	44/261 (16.9)	90/438 (20.5)	
早産	97/261 (37.2)	53/438 (12.1)	
自分の体	29/261 (11.1)	69/438 (15.8)	

人数(%)

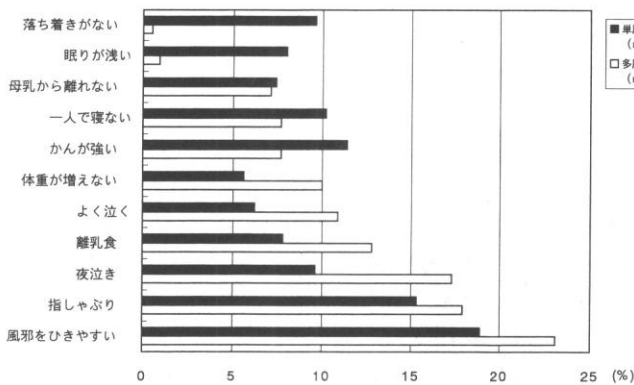


図2 育児に関する心配事

残りの約40%の者がストレスを解消していなかった。多胎児の母親では、双子の親の会に参加している者がそうでない者より、ストレスを解消している者が多かった(表5)。解消方法は両群共友人との会話が最も多く、次いで夕食や飲みに出る、趣味にふける、育児サークルへの参加の順に多かったが、多胎児の母親に育児サークルへの参加を解消方法にしている者が多かった(図3)。

5. 子どもに対する意識

子どもと一緒にいて“非常に楽しい”または“まあ楽しい”と答えた母親は、両群共95%であった(図4)。多胎児の母親では、第4子が多胎児だった者より第1子や第2子、第3子が多胎児だった者がこのような肯定的な意識をもつ者が多かった(表5)。

また、多胎であるとわかった時に嬉しかった者(非常に嬉しかったものと多少嬉しかった者)が83.7%、困惑した者(非常に困惑した者と多少困惑した者)が73.1%、多胎児を育てて良かつ

表5 多胎児の母親の育児意識と背景要因の関係

背景要因	母親の意識		ストレス		子どもと一緒にいて楽しいか			叱りすぎや虐待ではないか	
	育児の心配事		あり	ストレス解消	とても楽しい	まあ楽しい	楽しくない	そう思う	そう思わない
妊娠中の大変さ									
非常に大変	179 (83.3)	**	72 (94.7)	**					
多少大変	139 (71.3)		56 (91.8)						
あまり大変でない	39 (53.4)		11 (64.7)						
妊娠中の心配事									
あった	109 (80.7)	**	124 (92.5)	**					
なかった	8 (42.1)		14 (73.7)						
多胎児の出生順位									
第1子					37 (46.3)	39 (48.8)	4 (5.0)	**	
第2子					15 (29.4)	33 (64.7)	3 (5.9)		
第3子					6 (30.0)	13 (65.0)	1 (5.0)		
第4子以上					2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)		
多胎とわかった時									
困惑した								62 (54.4)	52 (45.6)
あまり困惑しなかつた								12 (41.3)	17 (58.7)
全く困惑しなかつた								3 (30.0)	7 (70.0)
双子会への参加									
参加している				67 (69.8)	**				
参加していない				27 (46.6)					

** p<0.01, * p<0.05 (χ²検定, Fisherの直接確率法)

()内は背景要因の同一分類に属する母親の内での%

「そう思う」は「非常に思う」と「まあ思う」と回答した母親の合計, 「そう思わない」は「あまり思わない」と「全く思わない」と回答した母親の合計

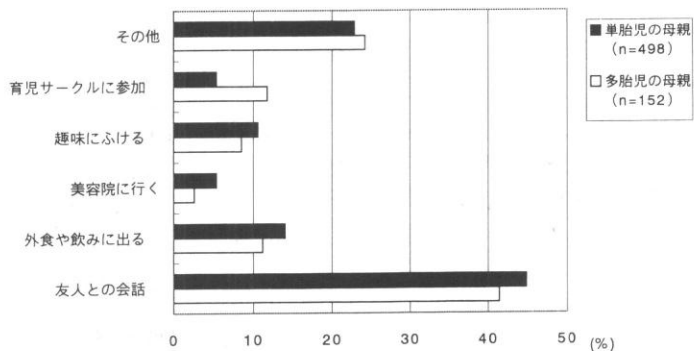


図3 ストレスの解消法

たと思う者(非常によかった者と多少よかった者)が96.1%であった(図5)。

6. 母親が望む支援(図6)

両群の母親が共通して望んでいた支援は, 出産祝金制度や一時保育, 無料の妊婦健診の増加であったが, 多胎児の母親では双子以上の育児

教室や双子以上の妊婦教室などの多胎児特有の支援を望む者が多かった。また, 単胎児の母親に比べて育児支援のヘルパー派遣制度と育児用品貸出制度を望む者が多かった。

IV. 考察

妊娠や出産は女性にとって正常で健康な経験と

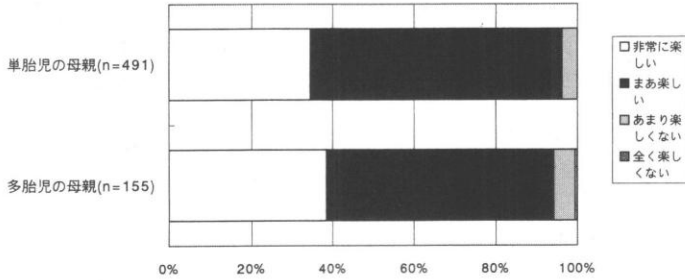


図4 子どもと一緒にいて楽しいか

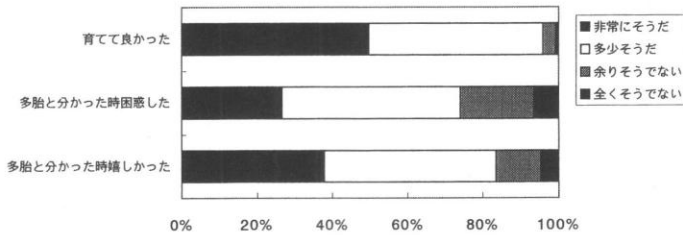


図5 多胎児に対する意識

して位置付けられるが、多胎の場合は母親の健康に関して単胎より高いリスクが示されている³⁾。本研究の結果でも多胎児の母親は妊娠中から早産防止などで入院する者が多かった。また、精神的にも早産・出産への心配や腹部の重さなどで大変さを感じる者が多く、これは石村⁴⁾や堀内⁵⁾の報告と一致する。また、育児においても授乳に要する時間が単胎児の2倍以上で、夜間起きる回数も単胎児の母親に比べて多かった。さらに、多胎児の母親には子どもの泣きや離乳食などの差し迫った育児問題を抱えている者や、自分の体調の悪さからストレスを感じる者、育児支援のヘルパー派遣制度を望む者が多く、妊娠中から乳幼児期にわたる、多胎児の母親の心身の負担や育児困難の状況が推察された。

また、妊娠中が大変であると育児にも同様な思いをもつ者が多いことや、子どもを叱りすぎたり虐待しているのではないかと悩むのは、多胎であるとわかった時に困惑した者に多いことがわかった。多胎児の妊娠に抵抗があった者が育児困難に陥りやすく、特にそのような母親には妊娠中からの支援が必要ではないかと思われた。

単胎、多胎にかかわらず約40%母親が育児の

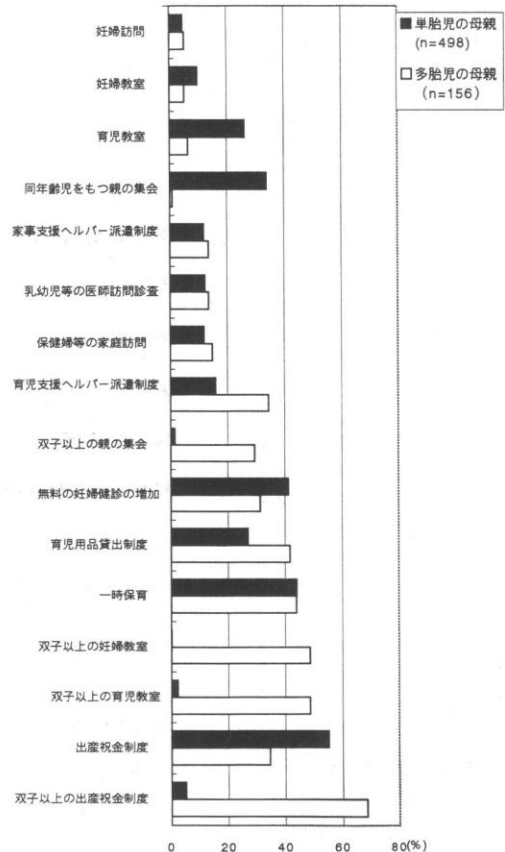


図6 妊娠・出産・育児に関して母親が望む支援

ストレスを解消していなかったが、多胎児の母親では双子の親の会への参加がストレス解消に効果的であった。また、多胎児の母親は多胎児用の教室や経済的支援を希望する者が多く、多胎児の家族を対象にした支援がさらに望まれる。しかし、多胎児の母親の生の声^{4,5)}をみると、妊娠中は流産や未熟児出生などへの不安を取り除く情報提供を求めているが、出産後は育児の手助けや精神的な援助をしてくれるヘルパーの派遣を求めており、近年産科病棟で行われるようになった多胎児の教室だけではなく、家庭訪問形態による支援が重要ではないかと思われる。

V. ま と め

3歳未満の多胎児の母親156名を対象に、育児の実態と母親の意識を調査し、前報の単胎児の実態と比較した。多胎児の母親は妊娠中から早産防止などで入院する者が多く、精神的にも早産への心配や腹部の重さなどで大変さを感じる者が多かった。育児においても授乳に単胎児の2倍以上の時間を要し、夜間起きる回数も多く、妊娠中から乳幼児期にわたる、母親の心身の負担が推察された。

また、多胎児の母親は妊娠中が大変であると育児にも同様な思いをもつ者が多く、子どもを叱りすぎたり虐待しているのではないかと心配するのは多胎妊娠に困惑した者に多かった。さらに、母親は多胎に関する教室の開催を希望する者が多く、また双子の親の会への参加が母親のストレス解消に効果的であったことから、多胎児の母親には妊娠中から育児期に渡る多胎児専用の支援が必要ではないかと思われた。

文 献

- 1) 加藤則子監修. 風の子キッズ. 双胎育児のQ & A. 1998.
- 2) 西村真実子, 津田郎子, 他. 石川県における乳幼児の育児の実態と母親の意識. 小児保健研究 2000; 59(6): 674-679.
- 3) 竹内 豊. 多胎児の管理と育児. 産婦人科治療 1995; 71(3): 308-311.
- 4) 石村由利子, 前原澄子. 双胎妊娠の妊婦のストレスと看護に関する研究第1報—単胎妊娠との比較. 母性衛生 1999; 40(1): 120-129.
- 5) 堀内 勁. 多胎育児の問題点と支援対策. 周産期医学 1996; 26: 715-716.